



American Bamboo Rod Builder Stories ②



Jeff Hatton

ジェフ・ハットン

伝統と最先端を操る「捻破り」

text Todd E. Arai Larson
 タッド・ラーソン/シンシナティ州/ホワイトフィッシュ・プレス
 訳 永野竜樹
 ながのたつき/東京都

コロラド州バオニア在住のロッドビルダー、ジェフ・ハットンは、現代のバンブーロッドビルディング界における「捻破り」である。彼の人生は彼が作るロッドのように興味深く、またユニークである。

〈編集部より〉

タッド・ラーソンはオハイオ州・シンシナティで出版社ホワイトフィッシュ・プレスを経営する大学教授(41歳)。シンシナティのザビエル大学で歴史を教えている。世界最大のバンブーロッド・コミュニティ「Classic Rod Forum」管理人であり、現役ビルダーたちの事情に詳しい。本稿は『フライの雑誌』のためにジェフ・ハットンへ新たにインタビューして書き下ろした。著名ビルダーへのインタビュー記事を定期的に小誌へ寄稿予定。予定ビルダー：ヘア・ブランディン、ハル・ペーコン、ダナ・グレイ、など。



コロラド州バオニア在住のロッドビルダー、ジェフ・ハットンは、現代のバンブーロッドビルディング界における「捻破り」である。フライフィッシングの世界では、ハイラム・レナードの時代にフライロッドの形状や機能がすでに完成されており、それが普遍であると考えられている。

その中であって、ハットンはいにしえのロッドの佇まいに自らの創造力をかきたたせつつ、最新の素材を採用したロッドを作り上げている。そのロッドには、彼のもつきわめて特異な氣質が反映されている。

ジェフ・ハットンは以前は溶接工であった。現在はプロのブロンズ彫刻家であり、バンブーロッドの著名な歴史家にしてコレクターであり、また世界的なロッドビルダーでもある。

彼の人生は彼が作るロッドのように興味深く、またユニークである。

□1

おもしろい！ もう一回！

ジェフ・ハットンは、釣り人になるべくして生まれたような男だ。

彼は1歳と7ヶ月のとき、コロラドのシャドー・マウンテン貯水池の下にあったため池に、みずから飛び込んだ。慌てた母親に水から引き上

げられた彼は、その瞬間に「おもしろい！ もう一回！」と歓声を上げたという。後年のロッドメーカーとしてのハットンの仕事ぶりをよく反映しているエピソードだ。

ハットンは、1961年コロラド州デンバーに生まれた。デンバーの北、ファイアーストーンという町に育った。

彼はそこで父親や二人の兄にアウトドアの手ほどきを受けた。若くしてフライフィッシングを始めた彼には、初めて手にしたバンブーロッドへの強い思い出がある。それはモンタギュー社のバンブーロッドだった。

ハットンは言う。「父は自分が7歳の時に、モンタギュー社製のクリアウオーターというバンブーロッドを買って与えてくれた。どうキャストして、どう魚を釣るのか、そのロッドがぼろぼろになるまでよく使ったものさ。」

そうして彼のフライフィッシング人生が始まった。当初彼は、誰もがアメリカ随一の聖地とやらやコロラドに住み、フライフィッシング三昧の生活を送っていた。

1980年代に入るとアメリカは景気後退期となり、ハットンが溶接工として勤めるはずの原子力発電所が閉鎖されてしまった。そのため、彼は自分が最も好きなことを仕事にした。つまりバイスを取り出して、プロのタイヤーとしてフライを巻き

始めたのだった。1982年のことである。

名ビルダーと名タイヤー

バンブーロッド・ビルダーとフライタイイングには密接な関係がある。サッド・ノリス (Sad Norris) に始まり、ウエス・ジューダン (Wesley Jordan) やペンキー・ギラム (Pinky Gilum) などのビルダーは皆、才気あふれるフライタイヤーでもあった。兄のディックがベトナム戦争で非業の死を遂げると、ハットンはそのタイイング道具一式を譲り受けた。以来40年、ハットンは一貫してフライを巻き続けている。

ハットンが最も影響を受けたのは、プロ・フライタイヤーで大物釣り師として名高い、デル・キャンティ (Del Cant) である。「デルとはずっと家族ぐるみの付き合いをしているんだ」とハットンは言う。

「デルがディックにフライ・タイイングを教えたのさ。デルはランカーハンターという一人乗りの穴あきゴムボート(チューブ)に乗って大物を多く釣り上げた世界記録保持者だよ。20フィート近い高波をもともしないでフレイミング・ジョージ湖(ユタ州とワイオミング州の境にある人造湖)に乗り出して、20ポンドや30ポンドもあるレインボーやブラウンを釣り上げていたんだ。」

デルは現在70歳台だが、いまだに大きなトラウトを追っかけている現役のフライフィッシャーだ。

フィッシングガイド兼、彫刻家

ハットンは13歳の時から自分の巻いたフライを売っていたが、本格的なプロタイヤーになったのは、1983年、伝説のフライタイヤー、A.K. ベストのもとで著名なブラッド・ビーファス (Brad Betus) とともに働くようになってからだ。

ハットンは言う。

「1983年から1986年まで、私はA.K. ベストのもとでフライを巻いていた。ベストは何から何までジョン・ギラクが本の中で書いたとおりの人物だった。世界中で最も優れたフライタイヤーの一人だ。ベストからは多くのスキルを学んだ。私のタイイングを見て、次にA.K. のタイイングを見たら、私がどれほど彼の影響を受けたのかよく理解できるはずさ。A.K. と3年間を過ごした後、もう一人の兄が相手の飲酒運転による交通事故で死んだので、両親と一緒に州の南へ引越すことになったんだ。そしてそこでガニンソン川を知ったのさ。1986年のことだよ。」

ガニンソン川は180マイルもあるコロラド川の大支流だ。ハットンとはガニンソン峡谷 (Gunnison